

九州大学附属図書館における外国人留学生支援に関する一考察：平成23年度中央図書館ツアー実施報告

兵藤, 健志
九州大学附属図書館e リソースサービス室e リソースサポート係

<https://doi.org/10.15017/20107>

出版情報：九州大学附属図書館研究開発室年報. 2010/2011, pp.27-31, 2011-08. Kyushu University Library
バージョン：
権利関係：

報告

九州大学附属図書館における外国人留学生支援に関する一考察 —平成 23 年度中央図書館ツアー実施報告—

兵藤 健志[†]

<抄録>

九州大学附属図書館ではこれまで積極的に大学の国際化に対応してきた。特に本稿では附属図書館における外国人留学生支援のあり方を考察する。また、具体的事例として平成 23 年度前期に実施した外国人留学生向け図書館ツアーについて詳しく紹介する。

<キーワード> 九州大学附属図書館, 国際化拠点整備事業, 国際化, 留学生支援, 図書館ツアー

Support for International Students in Kyushu University Library —Central Library Tour in English and easy Japanese—

Kenshi HYODO

1. はじめに

大学の国際競争力強化という観点から外国人留学生の受入拡大が進められている。平成 21 年度に文部科学省による国際化拠点整備事業の採択拠点となった九州大学においても、アジアを中心に留学生の受入を計画的に推進し、平成 20 年 5 月時点で 1,292 名であった留学生数を平成 32 年度末には約 3 倍の 3,900 名（全学生数に占める留学生の比率 20.5%）とすることを目標としている[1]。

附属図書館では、従来から本学の国際化に迅速に対応してきたところであるが[2]、このような状況の中で、なお一層の取り組みが求められている。本稿は、今後の外国人留学生支援に関する企画立案に資するため、これまでの附属図書館の取り組みを概観してその支援のあり方を考察するものである。また、直近の活動として平成 23 年度 4 月に実施した留学生図書館ツアーについて詳しく報告する。

2. 九州大学附属図書館における外国人留学生支援

九州大学附属図書館では外国人留学生へのサービスを強化するために次のような活動を行ってきた。

2.1. 外国人留学生向け設備および資料の整備

平成 2 年 6 月より、留学生に特化した空間である国際交流コーナー（写真 1）を中央図書館内に設置している。国際交流コーナーでは、海外衛星放送受信設備、アジア系外国新聞、日本語・日本文化学習教材など留学生の役に立つ設備や資料を備える。特に資料については、英語だけで学位取得可能なコースを開講する学

部・大学院関連分野の基本英文教科書を平成 21 年度重点的に整備し同コーナーに配置した。



写真 1 中央図書館国際交流コーナー

2.2. 外国語による利用案内およびサービスの提供

パンフレットやウェブサイトなど図書館の利用案内は日本語だけでなく英語も意識したものになっている。特に、図書館ウェブサイト[3]については平成 19 年度のリニューアルによって英文サイトの充実を図り、平成 21 年度には図書館の建物について館内外のサインを全て英文併記のものに変更した。また、窓口での外国語対応が可能となるよう、図書館職員は積極的に学内の外国語研修を受講している。さらに、平成 22 年度から、本学国際部が主催する新入留学生オリエンテーション（写真 2）において図書館の利用方法やサービスを英語で紹介し、平成 23 年度から、中央図書館にお

[†] ひょうどう けんし 九州大学附属図書館 e リソースサービス室 e リソースサポート係 E-mail: kenshi@lib.kyushu-u.ac.jp

いて留学生向けの館内ツアーを開始した。この図書館ツアーについては詳しく後述する。



写真2 新入留学生オリエンテーション

3. 外国人留学生への支援のあり方

附属図書館における外国人留学生への支援を概観してみると、各事例は次の2つのどちらかに分類できることに気づく。

- ① 日本人学生と同等のサービスを楽しむよう環境整備を行う。
- ② 日本人学生とは異なるニーズに基づくサービスを提供する。

3.1. 基本サービスを楽しむための環境整備

①については、館内外サインの英文併記、図書館サービスの英語化、窓口での外国語対応、英語での図書館ガイダンスなどがあたる。日本人留学生と外国人留学生とで分け隔てなく図書館サービスを提供する必要があるが、まだ日本語を習熟していない留学生にとって言語は大きな壁となる。例えば、言葉が分からず蔵書検索がうまくいかない、図書のキャンパス間配送サービスを知らないといったことで、九州大学の情報資源にアクセスできないのでは非常にもったいない。外国人留学生に図書館サービスを最大限に享受してもらうためには、サービスの多言語化、少なくとも英語化は必須である。

また、外国人留学生にとって魅力的な図書館であるためには従来から日本人学生に提供している図書館サービスそのものが貧弱であっては元も子もない。学術情報整備や学習環境提供など図書館の基本機能がしっかりしていることが前提であり、日本人学生の学習支援を日々充実させ、図書館の基礎力を底上げすることが重要である。国際化対応はその確固たるベースがなければ上滑りしてしまうであろう。

3.2. 日本人と異なるニーズにもとづくサービス提供

②にあたる事例は、外国人留学生が母国情報を得ることができるように海外衛星放送受信装置を設置したり、日本語・日本文化を学習するためのコレクションを構築したりなどである。この他にも外国人向けの地域情報を提供したり、イスラムなど各文化圏に特化したコミュニティ空間を整備したりといったことが考えられるが、これらは、本来であれば図書館ではなく、他の国際関係の部署が主体となって企画運営すべきものであろう。ただ、外国人留学生への支援は一部署だけでなく大学全体で支える姿勢が無ければ効果的でないし、多くの学生と情報が集う図書館がそこで何らかの貢献ができることは間違いない。

4. 外国人留学生に特別な配慮が必要な理由

さて、前章までで九州大学附属図書館における外国人留学生支援の概要について簡単に述べてきたが、中には次のような疑問を感じる教職員もいるかもしれない。外国人留学生をそれほどまでに特別視しなくてもよいのではないか、郷に入っては郷に従えと言うのではないか、日本にきているのだから日本語で話すのが筋であるし、わざわざ英語で対応したり母国語の情報を提供したりしてはいつまでたっても日本に馴染めず本人のためにならない、多大な労力を使ってまで外国人留学生に特別なサービスを提供しようという意図が理解できない、などの否定的な意見である。

このような見解にも一理ある。せっかく日本に来たのだから日本語を覚えてもらいたいし日本文化を学んで欲しい。また、留学生対応にそれなりのコストが発生するのも事実であり、例えば、これまで日本語だけだった図書館ガイダンスを英語でも開催するとなると単純に2倍の労力がかかる。

しかし、それでもなお、筆者は外国人留学生に向けて特別に配慮した取り組みを積極的に展開する必要があると主張する。理由は以下のとおりである。

第一に外国人留学生は異なる言語や文化の世界に飛び込んできた挑戦者である。筆者の個人的な体験（長期海外研修）にもとづくが、母国を離れたばかりの時期は生活も精神的にも不安定な状態である。そんな折に大学全体から伸びる支援の手がどれほど留学生を安心させ勇気づけるものであるか。この意味から大学の一施設である図書館も積極的に外国人留学生を応援している姿を見せるべきである。

第二に外国人留学生受入拡大による国際競争力強化は大学の方針である。世界中から支持される高等教育機関であるためには、自国の言語や文化を大事にしつつ、さらに英語という国際言語によって学習・教育

環境を提供し、国際的に通用する人材を輩出しなければならない[4]。既に本学では、この方向に沿って、英語だけで学位が取得できる国際コースが農学部と工学部に設置されている。そもそも、外国人留学生は、日本人になるために日本に来ているのではなく、国際人となるために日本に来ている。国際人とは、他国文化との交流を通じて、自国文化と他国文化との差異を客観的に認め、国際的見地から納得できるように自分の考えを表現できる人間である。さらに言えば、外国人留学生受入拡大の真の意義はこのような国際人としての留学生との交流を通じて日本人学生が国際化することである。外国人留学生を大事にすることは本来的に日本人学生の育成にもつながっていく。サービスの英語化など図書館において外国人留学生が存分に力を発揮できるように環境を整えることは自然な流れである。

5. 外国人留学生向け図書館ツアー

本章では、本学附属図書館の具体的な活動事例として平成23年度4月に実施した外国人留学生向け図書館ツアーについてその過程や結果を述べたい。

まず、実施の背景としては、前述のとおり、日本人学生と外国人留学生とで分け隔てなくサービスを提供する必要があった。しかしながら、外国人留学生はこれまで図書館ガイダンスを受講する機会がほとんどなかったのである。そこで、平成22年度には本学国際部が主催する新入留学生オリエンテーションに参加し、その中で図書館の利用方法やサービスについて簡単に英語で紹介した。加えて、外国人留学生の来館利用を促進するため、翌年の平成23年度には前学期の開始時期に合わせて新入留学生向け図書館ツアーを実施した。以下はその図書館ツアーの実施記録である。

5.1. 実施時期／方法

ツアーは中央図書館のみで実施した。実施期間は平成23年4月11日から15日の5日間である。この期間は入学式の翌週にあたる。開始時刻は5時限目と同じ16時40分とした。留学生が都合のよい曜日に参加できるように、ツアーは毎日同じ内容のプログラムを英語と日本語で繰り返し実施した。ツアーに参加するためには、特に予約の必要は無く、開始時間前に直接会場に集合すればよいこととした。参加者が集合した後、英語で実施するグループと日本語で実施するグループとに分けてツアーを開始した。

5.2. プログラム

図書館ツアーは2部構成30分のプログラムを設定した。①実際に中央図書館の館内をツアーしながら設備や資料や基本的な利用方法を紹介(写真3)、②あらかじめ作成した動画によって図書館のWebサービス

(Webサイト・OPAC・MyLibrary)を紹介(写真4)、という2部である。全体の中で、①は20分程度、②は10分程度の時間を割いた。また、留学生は図書館入館証やWebサービス利用アカウントの取得方法が一樣ではないため、説明資料を事前に作成して配布した。



写真3 中央図書館ツアーの一コマ(開架閲覧室内)



写真4 中央図書館ツアーの一コマ(Webサービス紹介)

5.3. 広報

広報のために日本語と英語でチラシを作成した(図1・図2)。チラシは中央図書館内に掲示するとともに、国際部が主催する新入留学生オリエンテーションで配布してアナウンスを行った。また、本学留学生会KUFSAの発行するニュースレターに図書館ツアーのお知らせを掲載していただいた。さらに、図書館ウェブサイトにもニュース[5]を掲載し、本学外国人留学生・研究者サポートセンターのウェブサイトからリンクを貼っていただいた。また、ツアー当日は開始の直前に日本語と英語で館内放送を流した。広報ではツアーを英語と「やさしい」日本語で実施することを強調した。



図1 留学生向け図書館ツアー広報チラシ (英語)

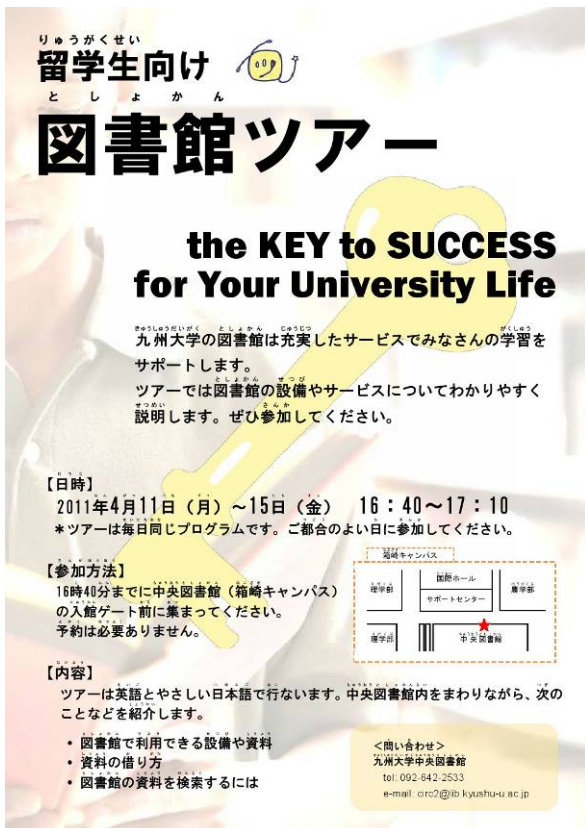


図2 留学生向け図書館ツアー広報チラシ (日本語)

5.4. 結果と課題

図書館ツアーの参加者総数は15名となった。各日の内訳は表1のとおりである。

表1 中央図書館ツアー参加者内訳

日	参加人数	案内言語	メモ
4/11	5	日本語	アジア系の留学生(留学生の家族1名含む)・PCの貸し出しはしているかという質問があった。
4/12	1	英語	農学部の研究生(ベトナム)・研究室やキャンパス外からの電子ジャーナルアクセス, また, 論文データのUSB保存(著作権ポリシー)などに興味があった。
4/13	3	日本語	法学部研究生2名, 人間環境科学府博士3年1名。文献の探し方をもっと詳しく知りたい様子であった。
4/14	2	日本語	人間環境科学府修士1年1名(中国), 同研究生1名(中国)・どちらも4月に九大に来たばかりで図書館の概要を知りたいという印象であった。
4/15	1	英語	ビジネススクールで半期の授業をおこなう教授(韓国)・中国語の資料に興味を持たれていた。
	3	日本語	比較社会文化学府・人文科学府・経済学府の研究生(中国)・国際交流コーナーの衛星放送受信設備に興味大。

毎日1~4名の外国人留学生や研究者が参加しており、英語での実施は2グループ、日本語での実施は4グループとなった。

参加が少人数であったことは大きな課題であるが、なごやかな雰囲気できめ細かく対応できたこと、会話の中から留学生のニーズをつかめたことは大きい。また、留学生対応というときに常に英語でなければという意識があるが、今回のツアーでは日本語のグループの方が多く意外であった。本学には中国人・韓国人留学生が多いことに起因すると思われるが、「やさしい」日本語のニーズが高いということであれば、図書館職員にとって取組の敷居が下がり、今後の拡大に好都合である。

今後は、参加人数を増やすため、留学生担当教員や留学生自身への聞き取り調査によって、参加しやすい時間帯などのニーズを探りたい。内容については、日本語学習資料の紹介にもっと焦点を当てるなど日本語初学

者向けに特化するのも有効であろう。また、外国人留学生といっても、国籍、滞在期間、日本語習熟度、所属コースなど様々である。例えば、大学院に正規に所属する留学生には日本人学生と同レベルの高度なプログラムを提供するなどターゲット別に時期や内容を考えるのが適切かもしれない。

6. おわりに

以上、九州大学附属図書館におけるこれまでの外国人留学生増加への対応を概観してその支援の在り方を考察した。また、具体的事例として平成23年度前期の留学生向け図書館ツアーの実施結果および今後の展開を紹介した。

国際的な競争を余儀なくされる大学にとって外国人留学生増加への対応は喫緊の課題であろう[4]。図書館は、日本人学生と変わらず外国人留学生に対しても、学習・教育・研究支援という点から、大きな貢献ができるし、外国人留学生が気軽に立ち寄れる場所であってほしいと願う。加えて、日本人学生の国際化という点からは、外国人留学生と日本人留学生の交流を視野に入れた取り組みがあると面白いのではないかと考える。

参考文献

- [1] 九州大学. “九州大学が、グローバル30の国際化拠点大学に選ばれました”. プレスリリース. 2009-07-03. http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/teacher/g-30/press_release.pdf, (参照 2011-06-31).
- [2] 兵藤健志. 九州大学附属図書館における国際連携活動-ソウル大学校中央図書館との交流を中心に. 図書館雑誌. 2010, vol. 104, no. 10, p. 668-669.
- [3] Kyushu University Library. <http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/?skinid=7>, (参照 2011-06-31).
- [4] 本間政雄. 留学生30万人計画と大学のグローバル化. 大学マネジメント. 2011, vol. 7, no. 2, p.7-11.
- [5] Kyushu University Library. “Library Tour for International Students”. Kyushu University Library News: Events. 2011-04-04. http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/events/international-students-tour_2011.html?skinid=9, (参照 2011-06-31).